



## 1 自己評価

### I 評価結果 (別紙参照)

### II 分析・改善策

#### 1 学力向上

- ・基礎・基本の徹底
- ・専門知識・技術の習得
- ・1人1台端末を活用した学習活動の充実

**基礎・基本（家庭学習）：**家庭学習時間調査の結果、新学期当初に57.4%だった「学習時間0時間」の生徒の割合が、1学期中間考査期間中には24.2%まで減少した。特に1年生で大きな改善が見られたが、3年生の学習習慣の定着には課題が残る。

**1人1台端末を活用した学習活動の充実：**公開授業や振り返り会を通じてChromebookの活用方法を研究し、教員間での情報共有と授業改善への意欲が高まっている。

**専門知識・技術（各系列）：**各系列（森林、園芸、食品、自動車、ビジネス）ともに、外部講師による講習会やコンテストへの応募、実習の安全管理に取り組むことができている。

#### 2 生活習慣の確立

- ・ルールの遵守
- ・挨拶の励行
- ・自己管理能力の向上

**ルールの遵守：**特別指導件数が18件（前年同期比+8件）と増加したが、1年生の指導票指導は大幅に減少した。

**挨拶の励行：**クラスや授業での挨拶はよくできているが、地域諸団体を巻き込んだ街頭挨拶などの取り組みはまだ十分ではない。

**自己管理能力：**健康観察シートの入力率が昨年度の60%強から70%超に向上し、健康管理意識の高まりが見られる。一方、学習面の自己管理については学年差があり、統一した活動は不十分であった。

#### 3 進路実現

- ・キャリア教育の充実
- ・学校生活（地域連携活動・部活動等の課外活動・資格取得等）の充実

**キャリア教育：**進路ガイダンスや就職準備セミナー、模擬面接などを計画的に実施し、生徒の意識向上を図っている。

**課外活動：**スクールミーティングで文化祭の企画を話し合うなど、生徒主体の活動を準備している。

**資格取得：**食品系列がプロジェクト発表県大会で優秀賞を獲得し評価Aを得たほか、森林系列での資格取得（伐木作業安全講習）、ビジネス系列での情報処理検定1級取得（9名）など、着実な成果を上げている。

#### 4 情報発信・広報

- ・教育活動の見える化

- ・三者協定の充実と地域活動の定着
- ・地域人材の活用
- ・HP・SNSの活用

情報発信（HP・SNS）：ホームページ（HP）のブログ更新回数が昨年度の0件から23件（1学期）へと劇的に増加した。特に農場部門では学習活動の外部発信が活発に行われている。  
 地域連携（三者協定・地域活動）：地域の親子向けイベント「ドリームファーム」の継続や、アフタースクール「カットレ」、総合的な探究の時間における地域連携活動が実践されている。

## 2 学校運営協議会委員（評価者）＜※校長を除く＞

水嶋 淳治	勝央町 町長
神田 寿則	勝央町教育委員会 教育長
浦島 毅	勝央町立勝央中学校 校長
黒川 洋	勝英農業普及指導センター 所長
竹久 伸二	JA 晴れの国岡山勝英総括本部広域営農経済センター勝央事務所 副所長
三ヶ田浩二	キャリア教育コーディネーター
石原 達也	みんなの集落研究所 代表執行役
青山 千香	(株)ニッチ 営業部部长
野上 和宏	野上石油(株) 代表取締役社長 (勝央中学校学校運営協議会 委員)
本行 才泰	しょうおう志援協会 会長 (勝間田小学校学校運営協議会 委員)
佐乗 充倫	高校コーディネーター
安東 厚生	岡山県立勝間田高等学校 同窓会長
永禮 淳一	岡山県立勝間田高等学校 元PTA会長 (永禮ファーム 経営者)
春名 雄治	岡山県立勝間田高等学校 PTA会長

## 3 学校関係者評価

第1回 令和7年 6月3日(火) 13:30~16:00

【主な内容】

- 委員紹介
- 学校運営協議会について（説明）
- 会長選出
- 本校の現状と課題（説明）
  - (1) 令和6年度の教育活動
  - (2) 令和6年度学校評価書
  - (2) 令和7年度学校経営計画等
  - (3) 令和7年度の主な行事について
- 質疑応答
- 意見交換

＜委員からの意見等＞

●生徒の関心を引くため、時代に即したキーワードへの系列の名称変更や再編を検討すべきではないか。例として、自動車分野に「EV化」や「次世代ビジネス」の視点を取り入れるなど、将来性のある打ち出しが考えられる。系列の再編や名称変更に要する「期間」や「手続き」を明確にする必要がある。これらの改革を実行に移すための「予算」や「人材」など、具体的に何が必要なかを明確にする必要がある。

●課題解決の一つの方向性として、地域企業との連携がある。人手不足に悩む優良企業と、就職を目指す生徒との間にミスマッチが存在する。このギャップを埋めるための仕組み（例：バイタニティの活用）を企業と連携して構築できれば、それが学校の新たな魅力となり、遠

方からの生徒募集にも繋がるのではないか。

●体験活動は自己肯定感が低い生徒の肯定感を徐々に高める上で重要である。社会に求められる人材像の参考として、経済産業省が令和4年5月に発表した「未来人材ビジョン」では、これからの社会で求められる力として「創造力」「探究心」「問題対応能力」「多様性」「協働性」などが挙げられている。

●入学者数の減少に対する地域の危機感が薄い。コミュニティ・スクールとして、学校は危機的な状況を地域に積極的に開示し、地域と共に解決策を探るべきではないか。地域全体で「勝間田高校を応援するムード」を醸成することが極めて重要である。

●生徒募集において「3年間でどのような進路を拓けるか」を具体的に「見える化」することが重要。卒業生の成功事例を積極的にPRする必要があり、「多様な進路の可能性のある学校」であることを中学校等に発信すべきではないか。

●オープンスクールの周知徹底が必要ではないか。運営協議会のメンバーが協力し、町内の様々な場所にオープンスクールのポスターを掲示するなど視覚に訴える広報活動を展開すべき。

●取得可能な「資格」を学校の魅力として強力にPRしてはどうか。OB・OGの視点から学校の魅力を発信することも有効である。情報を提供しなければ、相手は検討することすらできないため、どのような形でPRを強化し、改善に繋げるべきではないか。

●生徒は勝間田高校や地元への関心が高く、オープンスクール等にも積極的。学習成果を地域でアウトプットする場を設けることで、知識の定着と自信（自己肯定感）につなげたい。高校生が小学生に農業を教える活動は、高校生には「教える自信」を、小学生には「身近なロールモデル」を与え、双方に良い刺激となる。活動制限や休日休止に伴い、中学生が地域活動に参加しやすい環境が整いつつある。今後はこの流れをさらに促進する。「教員の付き添い」を前提としない仕組み作りが急務。地域側も「教員は顔を出す程度で、生徒のみの参加を歓迎する」との姿勢を示しており、地域資源を活かした持続可能なキャリア教育を推進する。

●不登校や特別支援を要する生徒が増加中だが、高校の教員配置は手薄な現状にある。人員を重点配置する「特例校」のような仕組みの検討が必要。対人関係は苦手でも、地道な作業を得意とする生徒も多い。こうした生徒が将来の農業の担い手となる可能性を視野に入れ、学校は「自己決定」と「活躍」ができる多様な場を用意することが期待されている。

●卒業後に農業で成功している若者も地域には存在する。農業で成功し高収入を得ている事例などを紹介し、高校生に夢を与えるような魅力発信が重要である。課題研究および総合的な探究の時間の発表会で生徒が見せる生き生きとした姿は、自己肯定感につながる良い取り組みであり、今後も継続が期待される。

●勝間田高校に進学した生徒が、希望した活動を通じて充実した学校生活を送り、就職まで結びついた、という成功のストーリーを中学生に伝えることが非常に重要である。在校生の協力を得て、体験談を動画に撮り、中学校に配布したり、Webで公開したりする方法が考えられる。

## 第2回 令和7年11月4日(木) 13:30~16:00

### 【主な内容】

○授業参観及び施設見学

○報告

(1) 学校経営・組織編成に関する事項

(2) 予算執行に関する事項

(3) その他関連する事項

○協議(グループ協議と共有)

「勝間田高校のさらなる魅力化・教育の充実並びに意見書(骨子)の検討」

### <委員からの意見等>

●学校の授業が楽しく、分かりやすいことが不登校や欠席者の減少につながっているのでは。学校のイメージ改善や、生徒の主体性・ポジティブな意見を積極的にアピールすることが需要ではないか。

●自立応援室のような場所の運営が、生徒のエネルギーや学校・進路決定につながっている。

授業づくりと集団づくりの重要性、協調や助け合いの中で達成感を得ることが大切である。保健室だけで対応しきれない部分をどうカバーするかが課題である。

●小学校との連携活動が多く、体験が進路選択や高校選択に影響を与えている。地域活動の継続には、教員だけでなく地域や行政担当者の関与が重要である。勝間田高校の活動に中学生も参加できるような取組が、進路選択の早期化や地域活性化につながる可能性がある。

第3回 令和8年 2月25日(水) 13:30~16:00

【主な内容】

○令和7年度 学校運営に関する評価

(1) 教育活動報告

(2) 学校評価

○「高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業」について

○リブランディング会議活動報告

○令和8年度に向けた学校運営基本方針協議

(1) 令和8年度学校経営計画書

(2) 令和8年度主要事業予算

(3) 令和9年度入学生教育課程

<委員からの意見等>

●地域見守り活動で「高校生の方が挨拶してくれる」との声があり、最近では小学生の挨拶が減っている。小中連合会でも挨拶運動重視の方針があり、「町全体で挨拶運動を展開すべき」との意見が多い。高校の生徒と連携し、通学時間の重なるタイミングで挨拶運動を共同展開してみてはどうか。中学生が高校進学を検討する時期に高校生の活動を見る機会は有益なのではないか。

●学校自己評価アンケートで「安心して生活できる場」「落ち着いて授業を受けられる」「授業の分かりやすさ」「コースの特色が魅力的」「実習・校外学習の達成感」について高く評価。現在のコース制がうまくいっていると思う。

●中学校ではボランティア参加数が減少傾向にある。コロナ禍で地域との距離が生じ、ボランティアの定義や進め方の整理不足が原因。高校と関わる場面が少なく、可能な範囲で高校・地域との関わりを広げたい。

●地元での丁寧な挨拶の積み重ねが評価につながる。ボランティアや小学校支援など外から見える活動の継続が必要である。小中学校では職場体験で外部メンバーを招聘し面接練習等を実施している。高校でも就職前面接に外部人材活用を活用してみてもどうか。

●学校自己評価アンケートの集計結果は生徒へもフィードバックされているのか。アンケートを集計するのであれば、集計結果をフィードバックした方がいい。評価の乖離(例:ルール・マナー)について双方が「なぜ」を話し合うことで、より寄り添った状況になるのでは。

●勝間田高校には多様なコースがあり、いろいろな学びできることが素晴らしい。就職につながる学校であるということが認知されることが大切。私たちの役割も、企業とのつながり強化や、離職率改善に向けた生徒支援ができたらと考えている。

●リブランディング会議でも話題になるが、県南からの特色ある学びを求める生徒受け入れ体制不足している。寮の設置が難しく、下宿の可能性、既存建物活用、生徒の財政的負担軽減策の検討が必要ではないか。

#### 4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

##### 1 学力向上

- ・学習習慣、基礎学力の定着のための「分かる・できる」授業の実践とそのための授業改善。
- ・学び合い、ユニバーサルデザインによる授業やソーシャルスキル教育の実践。
- ・1人1台端末を活用した学習活動の充実。
- ・社会人講師等の地域人材を活用した教育の充実。

## 2 生活習慣の確立

- ・「勝間田スタンダード」の再検討、基本的な生活習慣と安全な生活の確立。
- ・交通安全の徹底。
- ・校内美化、校外清掃活動の推進。
- ・自己の健康への関心と健康意識の向上。

## 3 進路実現

- ・キャリア教育の充実による、生徒が主体的に進路決定できる力の育成。
- ・個々の生徒の資質・能力、特性に応じた関係機関との連携による支援の充実。
- ・生徒会活動と地域連携活動・部活動等の課外活動等の充実。

## 4 情報発信・広報

- ・教育活動の見える化。
- ・勝央町・しょうおう志援協会との三者協定に基づく地域連携活動の充実
- ・オープンスクール・中高連絡会・中学校での説明会等での中学生とその保護者への情報発信。
- ・勝央町の広報誌、マスコミ、HP・SNS等を活用した情報発信。